





山田
浦

絵本伴ひ夢誠案批合取文

火移紙中絵面始めの二枚前後へ度る太内ゆ彌善の
の上に後禮の衣裳洗羽織坐の跡卷一め眼息小豆と
居る表を即ちいふて居る勝手清三の取扱いを
長巻をかくぬ抱うてゆうひ姫太内ゆ彌善の側へ寄ふと
もと渡町詣あひて居まへふと本を入れ

ゆる分る至山本抱叶ひませぬサヲそれでも云々ゆりあき
れませぬと春處足うへ古機縫ひきでひり拂るが必死と云
うが病氣死胡乃が限を立てぬ右あつが新せひあはる



それいげども丹右ゑつどの、實^ト富と軍くくへ畏つてふり来る
と二人を^トがくへ今小於て知せりあきハチア、うけハぬゆへうぞく
はしきをり。今小於て知せりあきハチア、うけハぬゆへうぞく
法心と^トにお下されませ。校ノ國家滅元今國事もや
く軍勢をき。向慶金に^ハイヤその後ハ見糧八安へ^ハおぜ軍ゼ
いを^トあさぬ^春ハツく^トぞ移豫^トモ^春サアそれ^ハ丹右ゑつの御せ
ハ今に於て何の御法も^ハあくべ彌^ハ舜^ハ滅元ナマ^ム念はが^トや。ア
アベキトヤと自^トか^トやと^トち^トを候^ト又又^ト帝^ト始^トめ^ト曉^ト近^トの奴原^トび
を見ね^ハ東^ト舞^ト使^ト候^ト候^トぬ^トいと^トも^ハ又丹右ゑつハ^ハ候^トて^トも^ハ
や^ハ改^トハ知^トぬ^春ハ^ハ知^トセハ^ハあひう^ハみ^ハ歎^ト女^ハ去^ト行^トリヤ^ハア^ハと

〔春〕
せうそい^トとむう^トをく^トと^トと^トと^トと^トと^トと^トと^ト
〔春〕
是^ト丹右ゑつ^トハア^トとナ^トや是^トノ^ト殿^ト丹右ゑつ^トハア^トとナ^トや是^トノ^ト
〔春〕
の^ト御^トセ^ト是^トノ^トナ^トア^トト^ト丹右ゑつ^トハア^トとナ^トや是^トノ^ト
〔春〕
舟^トあ^トの^ト物^ト入^トて^ト舟^トあ^トと^トせ^ト舟^トあ^トと^ト舟^トあ^トと^ト
〔春〕
人^トら^トる^ト手^トに^ト舟^トあ^トヨリヤ是^トう^ト綺^トね^トと^トい^トや^ト舟^トあ^ト
〔春〕
の^ト舟^トあ^トハ^トア^トは^ト舟^トあ^トと^ト舟^トあ^トと^ト舟^トあ^トと^ト舟^トあ^ト
〔春〕
お^ト後^ト船^ト舟^トあ^ト等^トは^ト舟^トあ^トと^ト舟^トあ^トと^ト舟^トあ^ト
〔春〕
疫^ト書^トチ^トア^ト候^ト一^トと^ト本^ト書^トチ^トア^ト候^ト一^トと^ト本^ト書^トチ^トア^ト

舟右衛門はほどか若きをこそへ。病氣の根柢は是けありとて
さつと足を春やア西へく候施症とど母母とくへば母と教乃は汝館を約定後
抱子抱子をト曲とのハハモリ底底あまを前前に至りて今こそ心死ぬ舟
内於内於ひふ心心舟舟へいないなややんやを曲曲貢貢御御ち波井城又又舟舟
又又舟舟う舟舟ると舟舟の怨敵怨敵ハ移又又舟舟今日計略計略を以てつう腹腹を切せ
首首立立こ小舟舟立立乃乃通通ヘホホヲカカトト通通ヘ保保及及企企立立發發
と奪奪ひひも彼彼志志本本舟舟斯波斯波又又舟舟廉廉ハ根根こそけ陰陰礼礼さん
あり事事と始始をとりこ小舟舟止止前前の誠度誠度をこらへ一一方方が斗斗暗暗と知知
うち史政元政それ夜夜に付付しるの役役同同命命を捨てて交遊交遊人人を以以

ととお發書發書をゆにわくわくせせへ通通の左臣左臣をやうやうとこひがくひがくへ
ア西維西維やまほ洞洞が赤木赤木の引引導導姑姑が良良んんと見見受け女女舟舟徳徳を
三人三人人命命を捨捨じじも重重君君へす忠忠へ是是剣剣ちよ枝枝の深深流流主主小小よよ
て船船ひの西西う本本西維西維舟舟思思山山の城城ハ妻妻を御御處處に治治同同お續續作作
せ付付ららききぞぞハシハシテ扇扇が谷谷の取取外外ハナハナ分分地地ハ勝勝又又に妻妻ハス
りや國國を立立くてては姫姫君君とほ花花迎迎き立立家家門門候候被被に立立
枚枚を改改り是是利利妻妻を名名と名名無無べべと管管領領する史政元元のささ
づづア西維西維さゆ中中ひうひひての室室を今今こそ叶叶ふ前前乃乃大慶慶程程
も諱諱及及堂堂乃乃せんせんままハハ糾糾ち寔寔に連連罪罪狀狀とぞうどほぞうぞんぞんそれ



久らまでハとあとへゆとこしやくかと角のけむ五郎お飛をも^ハヤア俺黨の
始りハ波井又又帝荒巻作作と癡^ハそれととぞ^ハ何ととら^ハ假倒合
丹右衛門^ハ肉身元相^ハと之^ハ是へとと丹^ハ波井又又帝^ハ家及一味と嘗へたば
トトの科人然らば敵と云てハあれま^ハやもど^ハ外に進^ハも^ハ
極便に納^ハアリ^ハ利家寛仁大父と名ひ半川^ハ君の仕合せ^ハ
又丹右衛門^ハ身^ハ誤りと云ふや^ハ木^ハ通^ハ極便の^ハ勘^ハき^ハ
支改元^ハのふと^ハ奉^ハセ^ハ一^ハ般^ハ丹^ハスリヤ又又帝^ハに^ハそ^ハまの^ハく
初の敵^ハチ^ハモ^ハキ^ハ立^ハ並^ハに^ハ勝^ハと^ハ練^ハと^ハお^ハじ^ハ縦^ハ納^ハの力
紛失^ハそち^ハ犯^ハ負^ハが誤り父^ハみハ^ハ一^ハ体^ハスリヤ^ハ誤り^ハ補^ハよ

久らまでハとあとへゆとこしやくかと角のけむ五郎お飛をも^ハヤア俺黨の
始りハ波井又又帝荒巻作作と癡^ハそれととぞ^ハ何ととら^ハ假倒合
丹右衛門^ハ肉身元相^ハと之^ハ是へとと丹^ハ波井又又帝^ハ家及一味と嘗へたば
トトの科人然らば敵と云てハあれま^ハやもど^ハ外に進^ハも^ハ
極便に納^ハアリ^ハ利家寛仁大父と名ひ半川^ハ君の仕合せ^ハ
又丹右衛門^ハ身^ハ誤りと云ふや^ハ木^ハ通^ハ極便の^ハ勘^ハき^ハ
支改元^ハのふと^ハ奉^ハセ^ハ一^ハ般^ハ丹^ハスリヤ又又帝^ハに^ハそ^ハまの^ハく
初の敵^ハチ^ハモ^ハキ^ハ立^ハ並^ハに^ハ勝^ハと^ハ練^ハと^ハお^ハじ^ハ縦^ハ納^ハの力
紛失^ハそち^ハ犯^ハ負^ハが誤り父^ハみハ^ハ一^ハ体^ハスリヤ^ハ誤り^ハ補^ハよ

ハタ殿とぬかそいどりやナアと考うるときの丹だ左さうさう家いえの
納な室むろ今まうなはな場ば所しょではあんへジじヤいよよてへ是ぜ殿でんにい安堵あんど
内うち歸き経き春はる云いそそかこもも主ぬし居ゐののおお伏ふ來くわの殉じゆ死しきハイヤハル
ノのよよびび欲ほききのの中なかのの悦えきびび古いき祝しゆく云いのの門もんおお冥めい途とのの門もんああるるき
神かみのの門もんおお古いき家いえハハ久ひ万まつくく家いえ
ママヤヤおお目めをを度とすすままろろとと引ひまませせくくククげげ絶ぜきききへる

少すこ移いは紙し中なか絵ゑ画が隙すき西にし方ほうおお典てん東ひがし方ほう極ごく極ごく
ななどど色いろああとと戸と色いろととききだだ喰くにに茶ぢ屋や亭てい主しおお九く郎ろう
里さと合あつ宿しゆく九く郎ろう山さん恩おん榮ぎやく坂ざか三さん十じゅう郎ろう門もん水みずにてにて渴う舌したりり

花はな子こゆゆ之の花はな野の仲なか居ゐおおたた同ひとおおかつか政まさををききりり本ほん
ユユリりヤヤ新しん一いはは吸く物ものりりてて來らいい後のママととここととややききううととハハややううぬぬいい奴やつ
ららじじささいいせせんんよよははううややくく波なくくいいいい川かわふふもも食くききぬぬけけ肴くわ
肴くわききののううハハテテそれれににええびびととうう簡かんささりりややれれりりハハイイヤヤくくああく
とと狂き慶きドドとと呑のてて悔くるるののごごんんももそそききくくホホシシ二二木き林りんたた々々や
てていいままううこのの政まさののハハれれ往むししややりりととアアまま新しん造ぞうさんさんとときき
乃の富とよよああへへヨヨリリヤヤ食くまませせふふややううんんぞぞへへどどぞぞ辱はずねねてて呑のいい
政まさ布ふののががくくへへぬぬととああくく斗とうりりとと悔くつつててねねつつくく構くひひからからええいいへへココ
ああいいここくくたたれれででひひららううまませせんんササくく花はな子こさんさんゆゆぞぞ深ふかてて旅たみみ仕し



二年五

てやくれへサアく強てお異くアインとあつておうものとひくはうち
ゆゑふもおを裏むるゝとふりませぬぐつと仰へりとせヘテモ
お遊奥の中へ氣のせきを抱どがとらうへ卒示かづくこそ小鹿
本政右清の友とや油方のやア深葱葱々居たる。ハシモとモヘ
三十郎毎でり半うべヤア政右どのお達ひに來とのうとひく
とえやこれハ奥方のほじやア板ハモソトやあくとゆびかての
うとねきのどくも
みるこゑにて、セツとモウ私ハニシトやか候て、モ油亂の弱い誰々が
かんと作せざうをどかとぬがお笑ひあさるを大あひふりませんぐつ
と仰へりませテモ大勢の門弟の方といひ女中ぬぐる。シテ

正犯どこにゆるやうへ止めんやうふゆでひり牛るとよづぬることあいげゆ
役員に用ぐるのと、何んの用ドや云へんせゆで、する日ハナアヘサア
その内用とりハといふともゆべく是これとひきどりとある。ハネとみて
ヨクと面白をみにあく正犯のゆるやく事内仕からう。モモクタツ
もせうふ白眼ぬへきつハ肝廢りちでハニゾヘオマモモクタツ
廢をきばと一ツ否一やん一とが脚立ヒナアとそばへる。とゆめあがまナ女
ハキシヒドモ酒機廢りやあひといラ、笑止やのとうとへ寄て見ゆ正
犯をち康にひろくいまくへ女店あども且那のひう所をねりやがん
と育樹をもういがめうぞとよぎうとぶとく。モニヨウセとてモモクタツ

くもるとみがひごへ幼きませくさうちがことかくとおへゑやの和
の苛ハ尤トやけきどもやうにいゆるとは又へされにふほじよア
辛抱と仕やいづベテモ女良才ア、が擣てあがいそ。且此のまむ
へ衆内仕居ろふ^衆あまやま方ガ抜立も尤トやコリヤ柔
きを活躍内中せやいヘイく是り并^{イシ}コレあ候處を裏のあ
れ程歎うあひと弱ねて政久にちゆ一上さんせいちアヘタイく合^グ
でらんもサア女中毎^{アマ}年の經い奴さんもんせいナアヘアキ^アも
どてやづるうとちゆうとハテ极^ア一あくやそんあうおまへがとれむ
ぞ^ゾサアはあされませ^トうこ^トおも^ト孫ハ^ト中^ト母^ト娘^ト三^ト人^トを^ト食^トして^ト既^ト右^ト情^トが^トア

おとづりに來^キて^ニは今^ハ敵討^アへ是レイ^シと云ふ入^セ
せんに^アと^キの^ア身^アと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キ
と^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キ
ふうまると^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キ
れま^ア林^ア幼^アと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キ
見^ア林^ア程^アへイ^アと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キ
夫^ア是^ア役^アの^ア毛^ア放^アれぬ^アと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キ
来て^アお^アひの老^アと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キ
不^アや^ア私^アも^アけ^アか^アれ^アが^アぬ^アと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キと^キ

れども余りはりませぬに候てひり年へりければまく付て
居神内に大兩でも落多夫事でも落と因だへた体でひりある
事林ヨリの如く能毛川飯糰川の百姓たゞやナハイきやうでふくま
もる林これちが因け山の民の慶本改舊つ身のそりでさい
つ林ナゼ改舊の後にう駄ひゆさぬをいサヲ主改をあつむけ
母林日斗りハ廊に疊縫けあされ來てねつゝを詮をよびりませ
んゆ林今日ハ計画圖をうつてまりりキニ活教きややるご
ふりあると大きき處林スリヤ是ケ山の縫縫じやナハイきやう
ござう年林コリヤ中々命脉のぬめりのトやあアとほづといふと
云ふ

てゑいへわとゑ合せゆかすれてをもへ立西さふぞんド牛と猪
ク林改舊などのにを以て百姓たゞれ餘きしやホシニ改舊などのへど
立林ぞいきもくらとおぬ西奥のせれこれナラ改舊へどことふドやいナ
と林をあふ支林をわきが知らういきれくも改舊などのと尋ねりの
トや立林ハタきてハ今立ゑい海りやつて看とて隙をあらぶ
ナラ。いやまよハ喰ぬぞへき禁止改舊へどんとも氣ハアレ
ヨウナ林それダガのゆうよへ物のうそをいきぞいナハ體である
くベドリヤそちをとどたつて立けりやいナ林是ハ先生余りで
ござる林イヤこれらひろゆきもる氣へあけれども食くまへもけ

いせぬもとへ約とみまくはんてハテお合せの辰平ひのを達至に
よるのサといやぐと^花ア^{これ}とむうみまつ木とちく西^政ヤア密黙^モ
つけこそと林友^花をれて^花やり政右^政のウ^政おうと。身^ミが合^モるのを
うせらと達^花あふと^花セ^林サそれハ^政キ^花友^花が達^花西^政に^花さ^トて^花行^花
侵^花ふく^花め^花サそれハ^政キ^花友^花ト^花侵^花敵^花に^花取^花
と立^花せん斗^花りト^花ヤア^政約^花とと作^花山^花能^花われとて^花さ^ト
ておひてチヨンの間^花をして^花ナ^花ハ^花チヨンの間^花とハ^花主^花元^花合^花
のけ^花せらと押^花みざされ^花こそ脇^花く^花與^花と^花さ^トチヨンの写^花で^花
立^花ま^花アシナ^花の斗^花りふ^花て^花私^花とあ^花が^花あ^花ま^花のナ^花そんあ^花ぎ

二ふたひ門^花てきつ^花ぞ^花ヤ^花政友^花があ^花に達^花一^花夕^花せねばあ^花うぬ^花
うあ^花一^花寸^花政^花と改^花あ^花林^花と改^花あ^花林^花と改^花あ^花林^花と改^花あ^花林^花
をつ^花る^花魚^花に大^花き^花物^花で^花看^花き^花ふ^花や^花魚^花又^花酒^花うの^花かう^花ゆ^花
と^花く^花スリヤ^花え^花ぐり^花ゆ^花を^花變^花ん^花の^花中^花く^花ま^花る^花の^花ゆ^花き^花と^花そ^花む
いて^花あ^花の^花う^花然^花ら^花一^花の^花翻^花く^花され^花と^花大^花き^花づ^花き^花か^花と^花あ^花み^花これ^花は^花ゑ
と^花く^花ら^花ふ^花は^花前^花で^花ま^花けて^花貴^花あ^花こ^花東^花う^花一^花お^花も^花て^花あ^花ん^花ゆ^花
あ^花く^花の^花あ^花い^花イ^花ヤ^花又^花か^花と^花ハ^花ど^花う^花候^花確^花ら^花ー^花く^花あ^花ん^花せ^花う^花一^花
喫^花セ^花門^花房^花中^花に^花笑^花へ^花も^花う^花紙^花ぬ^花づ^花る^花の^花立^花食^花み^花身^花が^花ほ^花前^花で^花擧^花
う^花き^花ご^花美^花穀^花ハ^花も^花ぐ^花に^花宣^花上^花う^花じ^花テ^花ハ^花テ^花机^花を^花見^花う^花え^花う^花あ^花ま^花バ^花を

けれふ振舞おれまでひいりへイやゑゑいはどり死死をあされても絶絶
かいてや林持もききてておおぬぬめめ前まへ御御ごごの奥おくをほ移動いりだやさるく
へた体枝もかいりうんうんあくへいいくぬぬでハハ神神經じへ傳授てんしゅと譲ゆる
のハ傳授てんしゅくくの筋き斗とうううスリヤスリヤ精神じみへ傳授てんしゅせぬ氣きクク神神經じ
ハさてよきもうげうげも骨もゆゆ歟歟といい學がくび又又山田さんだ新田しんたりゆひら
ぐらぐらととアモアモモモ新田しんた後こう約やくもいいじやじテテモモ信臣しんぶんのの是ま處處
にに無む食く小こ糸いと作つくせ付つれれ山やまののここ支ぢもうそそううハハ後こう生せいいをななこ
れさせんせんが能の川かわ飯はん合あわ川かわのの百姓ぼうしななまえまえ小こ糸いと付つてて無むとと處處
くく人じんとと國くにららままとと行ゆののおお百姓ぼうしどどもも起おき西にし來くわるる力ちからののももきき

くく義ぎくくヤヤもさ政まをちやううでハハまままま真まりんりんもままままくくくくテ
根ねもも本ほ性じやうとももううよよそそくくししううづづ是いままトトきき川かわととででををある
ててああきき、かりり一一枚まい内うちにに波なああええすすももねねででももううそそひひききくくくくががくく
どどももききええにに被はふふててそそややくく次つうう鳥とりううくくととももううかかううととのの外外
甚せんををああいいつつくくととここ六ろく又またどどももれればばととええふふ然ぜんとと西にし白しらふ
ももああいいくくととどどももるるががいかかにに到いたののままままよよくくくくくくハ
予よだだももああいいモモリリくくききれれををひひややりりよよひひととははくくくくくくハ
むむアアととおおががぞぞええののままいいへへるるととハハテテねねううううふふややううととのの方方
ととモモササレレババアアととままくくくくととどどででムムササキキ丈じやうよよううくくととれれふふききとと



と又あへ立さるをちうらととさんと筋あてと林左衛門天ぐねとハジであ
こつや又あらのあともあらふづいて筋をつてとさんとあどん
又とハジであうへれてやうくと筋をすとやうく是れ
ふち合せうつときとどまてあうへりや又うじゑううきいと東屋
をうけにけニミンとくたまへをばどであうへちうとううれでや
ろくと林左衛門のヨリヤドードヤと改名うう音の改
ふであうへりや又あとの名を越向や。また宮川と
改名川とくと林左衛門の松林、
とえどひへゑくけ大本と筋せいでくは筆と筋
とくへまをかれてくとんくす一柵かんぞばどであう

